

2018年11月21日

報道関係各位

ティアック株式会社

自動車、鉄道における多チャンネル車載計測データの PC フロントエンド インテグレートドログガー『LX-1000 シリーズ』を発売

ティアック株式会社(本社:東京都多摩市、代表取締役社長:英 裕治)は、小型で高速・多チャンネルのデータ収録装置、インテグレートドログガー『LX-1000 シリーズ』を、2019年3月より販売いたします。

品名	型名	メーカー希望小売価格	発売予定日
インテグレートドログガー	LX-1000	90万~498万円*	2019年3月

*価格はチャンネル構成により異なります。



『LX-1000』(16チャンネルモデル)

<https://datarecorder.jp/products/lx-1000/>

『LX-1000 シリーズ』は、主に自動車、鉄道などの車載計測、電力、その他分野における音振計測や汎用計測の PC フロントエンド・ログガーユニットとしてご利用いただくことを目的とした製品です。

従来製品の LX-100 シリーズと比べ価格は据え置きながら機能・性能面を大幅に改善したこと、また入力アンプをモジュール化することでユーザーによるシステムインテグレーションが容易に行えることが大きな特長となっています。自動車の音振計測向けに CAN やひずみアンプ等を用意、USB カメラの接続など幅広い用途に簡便に対応できる製品となっています。



(64チャンネルモデル)



(48チャンネルモデル)



(32チャンネルモデル)



ER-LXRC1000
(リモートコントロール)

主な特徴と従来品からの改善点

- 32ch 構成までは冷却用ファンを実装せず使用できるファンレス化を実現(静粛性の測定)
- 1 ユニット最大 64ch までの構成が可能、更に 4 ユニットまで同期させることで、256ch(64ch×4 ユニット)の同時計測に対応
- 従来品を大幅に上回る 120dB のワイドダイナミックレンジを実現
- 大容量汎用記録メディアを採用:入手性の良い SD カード対応(SDXC/SDHC)により、最大 128GB の大容量メディアに対応
- アンプバリエーションの強化:電圧、PA、CAN、ひずみ、熱に対応
※アンプの構成変更はユーザーによるインテグレーションが可能
- パルス入力アンプ(2ch)を標準実装
- GPS 入力を標準実装
- 直感的操作性に優れた小型リモコンをラインナップ、スタンドアロンでの利用も簡単に行える
- PC フロントエンド用に Gigabit Ethernet による高速データ転送機能を装備
- ティアック独自のデータ取り逃し防止機能を付加し、不意な電源ダウンでも直近までのデータを確実に記録
- PC 制御用ソフトウェアは従来製品でも実績のある LX Navi を標準付属
- データフォーマットは従来通り TAFFmat 形式を採用

その他の仕様

寸法 メインユニット	: 300(W) × 65(H) × 200(D)
拡張ユニット	: 300(W) × 44(H) × 200(D)
重量	: 約 3.1kg(PA16ch 時)
消費電力	: 26W 以下(PA16ch 時)

※仕様は改善のために変更することがあります。

主な販売先

- 自動車関連
- 鉄道関連
- 電力関連

販売予定台数

- 年間 200 台

『LX-1000』製品サイト <https://datarecorder.jp/products/lx-1000/>